The Japanese Society for Time Studies

日本時間学会ニュースＨ26年第３号(2014年９月)

発行人　　日本時間学会　会長　　辻　正二
〒７５３－８５１１　山口市吉田１６７７－１
山口大学時間学研究所内
日本時間学会事務局
TEL＆FAX　　083-933-5848
mail@timestudies.net
http://timestudies.net/

目　　次

Ⅰ　第 6 回大会報告　・・・・・・・・・・・・・・ 3
　ⅰ．大会概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
　ⅱ．平成 25 年度総会報告・・・・・・・・・・ 5
Ⅱ　理事会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
Ⅲ　第 6 回大会　自由報告・・・・・・・・・・・10
Ⅳ　会員異動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
Ⅴ　会員研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
Ⅵ　学会員の著書・新刊紹介コーナー・・　・・ 10
Ⅶ　新入会員紹介・・・・・・・・・・　・・・・ 11
Ⅷ　学会誌「時間学研究」投稿のお願い・・・・16
Ⅸ　訃報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
Ⅹ　来年度開催校のお知らせ・・・・・・・・・・18
Ⅺ　事務局からのお知らせ・・・・・・・・・・・18

平成 26 年度日本時間学会第 6 回大会
於：保健医療経営大学

Ⅰ．第 6 回大会報告

第6回大会および公開シンポジウムは、下記の日程で開催されました。
たくさんの方々にご参加いただき、ありがとうございました。

日時：2014 年 6 月 7 日（土）－ 8 日（日）
場所：保健医療経営大学　(福岡県みやま市高柳 960 番地 4)
日本時間学会第 6 回大会

6 月 7 日（土）AM		自由報告　【セッションⅠ】
	PM	日本時間学会　理事会
		時間学公開学術シンポジウム
		情報交流会
6 月 8 日（日）AM		日本時間学会　総会
	PM	【セッションⅡ】【セッションⅢ】

ⅰ．大会概要

＜時間学公開学術シンポジウム＞
「体内時計の効果的な活用は可能か―学習・スポーツ・仕事への生かし方―」
日時：6 月 7 日（土）14：00～
会場：保健医療経営大学（(福岡県みやま市高柳 960 番地 4)
講演：

○『体内時計の効率的活用は可能か』
　明石 真　（山口大学時間学研究所・教授）
○『体内時計が記憶・学習に与える影響』
　栗山 健一（国立精神神経医療研究センター精神保健研究所・室長）
○『体内時計と心の時間』
　小野 史典（山口大学教育学部・講師）
○『体内時計とスポーツ』
　内田 直　（早稲田大学スポーツ科学学術院・教授）
○『安全で健康に働くために体内時計を大事にする』
　高橋 正也（労働安全衛生研究所作業条件適応研究グループ・上席研究員）
○『体内時計を考慮した生活習慣マネジメント』
　小山 恵美（京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科デザイン経営工学部門・教授）

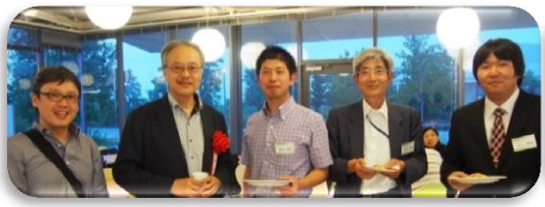
平成 26 年 6 月 7 日（土）、日本時間学会との共催で、福岡県みやま市の保健医療経営大学にて、時間学公開学術シンポジウム「体内時計の効果的な活用は可能か –学習・スポーツ・仕事への生かし方–」を開催しました。シンポジウムのイントロダクションとして、明石真教授が体内時計のメカニズムと、現代人における体内時計の自然のリズムからのズレによって生じる健康上のリスクを概説しました。

栗山健一先生 は、体内時計によって体温の１日のリズムがつくられており、体温リズムが記憶や学習効率の良い時間帯と深い関係があることを説明、小野史典講師は、実験データに基づき、時間の長さに対する人間の感じ方には一日のリズムが存在することを示しました。

また、内田直先生 は、時差対策の成功例を紹介しながら、体内時計とスポーツの成績との関係を解説し、W 杯など、海外で活躍するスポーツ選手への提言を行いました。高橋正也先生（労働安全衛生研究所・上席研究員）は、体内時計と仕事効率や安全性の関係を、夜勤の問題に注目しながら概説し、体内時計を考慮した労働環境の整備の必要性を訴えました。

最後に、小山惠美先生 は、体内時計が撹乱されやすい現代社会において体内時計の正常機能を維持するための日常の生活におけるコツを紹介しました。会場からは、体内時計が人間の健康や能力の根源的な部分に関わっていることへの驚き、体内時計を無視した現代社会についての疑問や提案など活発な発言・討論が行われました。

続いての情報交流会には多数の参加があり、乾杯の音頭を三池理事がつとめ、会場の保健医療経営大学の学食マドンナの豪華料理に舌鼓を打ちながら、ゲスト講師らを囲んで時間学談義に花が咲きました。



ⅱ.平成 26 年度総会報告

1, 開会

2, 挨拶

日本時間学会会長　辻　正二

3, 議長選出　松野浩嗣理事

4, 報告事項　藤澤健太理事

会員に関する報告　学会誌編集　平成 25 年度事業報告および決算報告　監査報告

5, 審議事項

平成 25 年度事業計画および予算案の承認　　来年度大会開催地の決定と承認

6, 閉会

平成 26 年度日本時間学会役員

	会長	辻　正二
	監事	武藤　正彦
	監事	山本　晴彦
	顧問	広中　平祐

理　事

	担当	理事名
1）	企画	井上愼一・森野正弘
2）	学術推進・研究	杉野法広・細井浩志
3）	編集（機関誌編集・発行）	藤澤健太・小山恵美
4）	渉外・広報	織田一朗・一川誠
5）	財務	三池秀敏・明石真
6）	庶務	松野浩嗣・植村恒一郎
7）	学会運営	右田裕規
8）	H27年度大会理事	

各担当理事の業務

１）　企画：学術研究大会の開催のための企画・立案など

２）　学術推進・研究：大会以外の全般的な学術推進・研究活動

３）　編集の業務：機関誌の編集・発行

４）　渉外・広報：対外的な活動や広報活動

５）　財務：学会の財務体質の安定化のための各種活動

６）　庶務：学会事務局の単年度毎の庶務・会計の活動

７）　学会運営：学会の運営に関すること

８）　年度大会実行委員長

平成 25年度 時間学会 決算報告書

（単位：円）

1. 一般会計

項　目		歳入	歳出	摘　要
1. 会費		423,000		会費（141 名分）
2. 交付金		0		
3. 寄付金		0		
4. 繰越金		1,081,178		
5. 雑収入		0	0	
6.大会運営費			21,008	
7. 需用費	印刷/コピー費		160,650	時間学研究　6巻(300部)
	印刷/コピー費		63,000	ニューズレターH25年第3号
	通信費		0	
	事務費		0	
3. 活動費	旅費交通費			
合　計		1,504,178	244,658	

差引残高　1,259,520

2. 特別会計（大会費）

項　目	歳入	歳出	摘　要
1大会運営費	21,008	20,542	ハガキ等
2.大会参加費	37,000		参加費1,000×37人
3.懇親会参加費	75,000		参加費3,000×25人
4.懇親会支払い		102,600	懇親会・お弁当
5.前年度繰り越し	14,750		
合　計	147,758	123,142	

差引残高　24,616

平成 26 年 4 月 18 日

会計監査の結果、適正に処理されていたことを認めます。

会計監査　武藤正彦　山本晴彦

資料6

日本時間学会　平成26年度予算

平成26年4月1日～平成27年3月31日

《一　般　会　計》　（単位：円）

科　目	25年度予算額	25年度決算額	26年度予算額	増減
I. 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
基本財産運用収入	0	0	0	0
基本財産利息収入	0	0	0	0
印税収入	0	0	0	0
印税収入	0	0	0	0
会費収入	500,000	423,000	500,000	0
会員会費	500,000	423,000	500,000	0
事業収入	140,000	112,000	130,000	-10,000
時間学研究発行事業収入	0	0	0	0
購読料	0	0	0	0
大会事業収入	140,000	112,000	130,000	-10,000
大会参加費	60,000	37,000	50,000	-10,000
懇親会参加費	80,000	75,000	80,000	0
補助金等収入	0	0	0	0
定期刊行物補助金	0	0	0	0
公開講演会補助金	0	0	0	0
大会開催補助金	0	0	0	0
寄付金収入	0	0	0	0
寄付金収入	0	0	0	0
雑収入	0	0	0	0
その他の収入	0	0	0	0
事業活動収入計	640,000	535,000	630,000	-10,000
2. 事業活動支出				0
①事業費支出				0
「時間学研究」発行事業費	480,000	160,650	480,000	0
直接出版費	400,000	160,650	400,000	0
別刷印刷費	40,000	0	40,000	0
人件費	0	0	0	0
謝金	0	0	0	0
送料運搬費	40,000	0	40,000	0
消耗品費	0	0	0	0
雑費	0	0	0	0
時間学会ニューズレター発行事業	0	63,000	50,000	50,000
印刷費	0	63,000	50,000	50,000
大会事業費	170,000	123,142	220,000	50,000
予稿集印刷費	0	0	0	0
謝金	20,000	0	20,000	0
送料運搬費	0	0	0	0
会場費	0	0	0	0
広告宣伝費	50,000	20,542	50,000	0
消耗品費	0	0	0	0
人件費	0	0	0	0
雑費	0	0	50,000	50,000
旅費交通費	0	0	0	0
懇親会費	100,000	102,600	100,000	0
事業費支出計	650,000	346,792	750,000	100,000
②管理費支出	42,000	0	92,000	50,000
人件費	0	0	0	0
会議費	0	0	0	0
旅費交通費	30,000	0	30,000	0
送料通信費	10,000	0	10,000	0
印刷費	2,000	0	2,000	0
消耗什器備品費	0	0	0	0
謝金	0	0	0	0
雑費	0	0	50,000	50,000
管理費支出計	42,000	0	92,000	50,000
事業活動支出計	692,000	346,792	842,000	150,000
事業活動収支差額	-52,000	188,208	-212,000	-160,000
前期繰越収支差額	1,095,928	1,095,928	1,284,136	188,208
次期繰越収支差額	1,043,928	1,284,136	1,072,136	28,208

平成 25 年度事業に関する報告

① 第 5 回大会開催：平成 25 年 6 月 8－9 日　第 5 回大会を山口大学で開催した。
② 公開学術シンポジウム：平成 25 年 6 月 8 日　第 5 回大会に合わせて時間学公開学術シンポジウム『〈夜〉の文化史　』を、山口大学時間学研究所と共催した。
③ 国際シンポジウム：平成 25 年 7 月 26 日（金）　時間学国際シンポジウム「幸福とは何か」を、山口大学時間学研究所と共催した。
④ 平成 25 年 9 月 13 日（金）会員研修会において、セイコーミュージアムの見学と会員情報交流会を開催した。
⑤ 平成 25 年 9 月 14 日（土）「時間学アフタヌーンセミナーｉｎ東京」および平成 25 年 11 月 30 日（土）「時間学アフタヌーンセミナーｉｎ福岡」を山口大学時間学研究所と共催した。
⑥ 理事会・委員会等
平成 25 年 6 月 9 日理事会を開催した。
平成 25 年 7 月 26 日に編集委員会を開催した。
平成 25 年 12 月 5 日に紙面理事会を開催した。
平成 26 年 1 月 26 日に臨時総会を開催し、規約の改正（学生会員の会費を設定）をした。
⑦ 日本時間学会ニューズレター（計 3 号刊行）
平成 25 年 5 月に 1 号、9 月 30 日に 2 号（カラー版）、平成 26 年 3 月に大会案内号（メール配信）を発行した。
⑧ 学会誌　時間学研究
平成 25 年 10 月『第 6 巻時間学研究　日本時間学会誌第 3 号』を発行した。
⑨ ホームページ管理
Google のＷｅｂサーバーを利用して、日本時間学会のホームページを構築し、情報発信を随時行っていたが、試験的に別サーバーに移行し、平成 26 年 4 月から、さくらインターネットのサーバーに完全移行した。
⑩ イベント通知
時間学に関連する様々なイベント（国際シンポジウム・時間学アフタヌーンセミナーなど）や、時間学研究所ニューズレターを、随時、会員に送付・通知した。
⑪ マスコミ対応
時間学に関する問い合わせが学会事務局に複数回あり、問い合わせの内容に応じて辻会長、織田理事、一川理事などを紹介した。

平成 26 年度事業計画

① 第 6 回大会開催：平成 26 年 6 月 7－8 日　第 6 回大会を保健医療経営大学で開催する。

② 公開学術シンポジウム：平成 26 年 6 月 7 日（土）　第 6 回大会に合わせて公開学術シンポジウムを、山口大学時間学研究所と共催する。

③ 時間学のセミナーや国際シンポジウムなどを山口大学時間学研究所と共催する予定。

④ 理事会・委員会等：平成 26 年 6 月 8 日　理事会を保健医療経営大学で開催する。日程は未定だが、編集委員会を開催予定。

⑤ 日本時間学会ニューズレター
平成 26 年 3 月に 1 号、5 月に 2 号を発行。引き続き 3 号を発行予定。

⑥ 学会誌「時間学研究」発行：今年度中に第 7 巻および 8 巻の発行を予定している。

⑦ 会員研修：総会で会員研修の企画を募集する。

⑧ 学会ＨＰ　平成 26 年 4 月より google サーバーより移行し新ＨＰを立ち上げた。
http://timestudies.net
また、学会メールアドレスも山口大学のサーバーから独立した。
mail@timestudeis.net

⑨ その他の活動：ホームページによる情報発信、イベント通知、マスコミ対応などの活動を随時行う。

Ⅱ.理事会報告

日本時間学会　理事会　議事

日時: 平成 26 年 6 月 7 日（土）　12:30－13:30
場所: 保健医療経営大学 2F 大会議室
出席者: 辻会長、三池理事、井上理事、山本理事、植村理事、織田理事、小山理事、一川理事、藤澤理事、森野理事、右田理事
欠席者: 松野理事、武藤理事、杉野理事、細井理事（以上、委任状提出）、明石理事（シンポジウム責任者）
議長: 辻会長
報告及び議題

1. 前回の理事会議事録案の承認　　承認された。
2. 新入会員の承認及び会員数に関する報告
退会者 9 名、入会者 16 名。入会者は承認された。
会費未納者への対応につき質問があり、定期的に督促を行っている旨報告された。
26 年 4 月から開始した学生会員の会費減額措置の効果を判明にすべく、入会（申請）者に関連した資料・名簿には学生会員/一般会員の別を明記することが今後の方針として提案・確認された。

3.　平成 25 年度事業報告　　出席者からの意見はなく承認された。

4. 学会誌の準備状況

学会誌第 4 号について、平成 25 年 12 月末締め切り時点で 4 本の投稿論文があり、そのうち現在までに 2 本が掲載決定していること、辻会長に編集委員会から寄稿依頼したことが報告された。

平成 25 年 10 月に刊行された第 3 号から各論考の投稿受付日・掲載決定日の付記を開始したことが報告された。

投稿論文・記事数を確保するための今後の方策として、次のような案が提起された。

①学術シンポジウムないしはセミナー等の記録の掲載（事前の解説記事、ないしは事後の記録という形）

②特集号・企画号など依頼原稿を主体としたナンバーの発行

③学会大会の一般報告の掲載

5. 平成 25 年度決算報告及び会計監査報告（山本理事）

決算報告が行われ、了承された。その際、学会誌の発行事業費決算額が予算額を下回った理由について、平成 25 年度には 2 度の発行を予定（逐年刊行という体裁を整えるための措置）していたが、刊行が遅れ 1 巻（号）発行にとどまったためである旨の説明があった。また山本理事より監査報告があり、了承された。

6. 平成 26 年度事業計画

平成 26 年度の事業計画が説明され、了承された。また次の諸点についての議論が行われた。

会員増のための企画として秋季の学会研修会（セイコー関連施設の見学会）を引き続き今年度も開催する旨の提案があり、了承された。

学会の予算上の独立性をたかめるため、企業と積極的に連携する制度（広告募集、賛助会員制など）を整えるべきとの提案があった。

7. 平成 26 年度予算案

平成 26 年度予算案が説明され、承認された。また今後の予算策定にかかわる意見（学会の中期的な展望をふまえた予算編成など）が提起された。

8.　その他

これまでの議題に関連した意見・提案（海外からの講演者招致案、セミナー記録や大会一般報告の学会誌掲載案）が補足された。

Ⅲ.第 6 回大会　自由報告

大会初日は、辻正二学会長、および開催校として会場整備等にご尽力頂いた橋爪章保健医療経営大学長の挨拶のあと、2日間にわたる大会発表がありました。

（左：辻正二日本時間学会長　右：橋爪学長）

セッション Ⅰ	6/7（土）		発表者	所属	タイトル
座長 井上慎一	1	10:40	平野　均	山口大学保健管理センター	「University Personality Inventory得点の変動からみた大学新入生心理の動向」
	2	11:00	加来田　博貴	岡山大学大学院医歯薬総合研究科	「PETイメージングを用いた新規レチノイドX受容体作動薬の体内動態解析」

座長の井上理事

平野先生

加来田先生

内田直先生からも質問が

座長 植村恒一郎	3	11:20	木下　宏一	保健医療経営大学	「時間学」からよむ太平洋戦争−安岡正篤と日本海軍
	4	11:40	河合　信晴	成蹊大学法学部	東ドイツにおける労働時間の削減と余暇
	5	12:00	森田　麻登	身延山大学仏教学部福祉学科	「ワーキングメモリ容量と主観的時間評価（Working memory capacity and subjective time estimation）

熱心に発表を聴く参加者

木下先生

河合先生

森田先生

セッションⅡ	6/8（日）				
座長 藤澤健太	1	12:40	長嶋　洋一	静岡文化芸術大学	聴覚的クロノスタシスと音楽の時間について
	2	13:00	一川　誠 本木愛里	千葉大学文学部	美的配置と観察時間
座長 小山憲美	3	13:20	野村直樹 橋元淳一郎	名古屋市立大学　人間文化研究科 相愛大学人文学部	系列時間で語る物理学、文化人類学
	4	14:10	青野　靖之	大阪府立大学大学院生命環境科学研究科	中・近世の秋季と春季の気温にみる気候応答の季節性

長嶋先生

一川先生

野村先生

橋元先生

青野先生

セッションⅢ	6/8（日）				
座長 青山拓央	1	14:40	李（イ）　恩善（ウンソン）	立教大学異文化コミュニケーション研究科博士課程後期課程	時間感覚に表れる領域意識
	2	15:00	村上　勝典	吉備国際大学	「青年期における時間評価の男女差について」Time estimation differences of adolescence between man and woman
座長 右田裕規	3	15:20	平田　賢明	長崎県小値賀町教育委員会	「長崎県小値賀諸島　大島における困窮者救済の社会システム（自力更生制度）」□
	4	15:40	内田　和実	保健医療経営大学	「観光・ツーリズム研究における「時間」の捉え方に関する一考察」

李　恩善さん

村上さん

平田先生

内田先生

Ⅳ.　会員異動

	H25年度退会者		
	氏名		
1	田中　理恵		
2	山崎　鈴子		
3	原田　規章	H25年度会員数	178名
4	林田　直樹	H25年度退会者数	9名
5	水谷　安延	入会申請者	16名
6	川越　ゆり	**H26年6月現在会員数**	**185名**
7	あらかわ菜美		
8	野崎　浩二		
9	西田輝夫		青色は学生会員

H25年度入会申請（H25年6月～H26年6月）申込み順

	氏名	所属	専門分野
1	村上　勝典	吉備国際大学大学院心理学研究科臨床心理学専攻博士（後期）課程	時間知覚
2	千葉　喜彦	元日本時間生物学会長	時間生物学・Biology & Art
3	伊達　卓二	保健医療経営大学	国際保健、医学物理、診療放射線技術
4	泉　賢祐	保健医療経営大学	社会福祉学
5	小林　研一	（株）イーアンドエス大阪支店	物理学
6	浦野　澄郎	自営　医師	医業
7	阿部　純義	三重大学工学部物理工学科	理論物理学
8	鈴木　素之	山口大学大学院理工学研究科	地盤工学・耐震工学
9	李（イ）　恩善（ウンソン）	立教大学異文化コミュニケーション研究科	異文化コミュニケーションにおける時間研究
10	上田　奈津貴	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	神経科学
11	小野　史典	山口大学教育学部	認知心理学
12	松永　伸夫	保健医療経営大学　時間学研究　事務局	
13	岩下　敦哉	学校法人学習院総合企画部	心理学・行動科学・人間工学・教育
14	甲斐　昌一	山口大学時間学研究所長	
15	橋爪　章	保健医療経営大学	保健医療行政・国際協力
16	茂野　綾美	富山大学医学部医学科	医学

Ⅴ．　会員研修

平成26年9月12日（金）、会員研修の一環として、銀座和光の時計塔、東芝未来科学館の見学会および会員情報交流会を開催しました。

心配された台風も北上し、秋晴れの中での和光の時計塔見学は、織田理事の企画、和光ご担当者の特別な御計らいにより、社屋上で時計塔を真近に見学することが出来たうえ、迫力のある時計盤と、重厚な鐘の音を聴くことが出来ました。参加者は一味違う銀座の街並みを見下ろしながら、カメラのシャッターを切っていました。

続いてＪＲで川崎に向かい、前副館長河本信雄先生のご案内で東芝未来科学館を見学しました。日本での科学技術の草分けともいうべき東芝創業者田中久重（からくり儀衛門）の作品や、その生涯について知る貴重な機会となりました。久重は幼少時から発明・細工の才を発揮し、からくり人形師として名を成した後、ペリー来航時には蘭学を学び、佐賀藩・久留米藩に招かれ、豊富な経験と技能を発揮し、動力蒸気機関車や電信、蒸気船の購入、アームストロング砲を製造するなど、地場産業に貢献しました。一方、30歳半ばで時計師としても最高峰の職人に上り詰め、和時計製作の集大成として和時計で唯一、国の重要文化財に指定されている「万年時計」を完成させました。その後江戸から明治の変革の時代を迎えると50歳を超えてから西洋の科学技術にチャレンジし、56歳の時には、勝海舟などの幕末維新の英傑に混じり長崎海軍伝習所に参加、オランダ人教官からその優秀さを賞賛されたと言われています。75歳になって上京後、国産電信技術の礎を築き、明治8年、現在の東京銀座8丁目に店舗兼工場を構え「東芝」の歴史が始まりました。明治14年（1881年）82歳で世を去るまで、実にエネルギッシュにマルチな才能を持って人生を全うした久重の生涯に大変感銘を受けました。

続く、情報交流会は会場を越州新橋店に移し、辻学会長の乾杯の音頭のあとに、「時間学概論」の出版でもお世話になった恒星社厚生閣の片岡社長も駆けつけ、各テーブルは「時間学」の話題で大いに盛り上がり、第2回目となる研修会を賑やかに終えました。

Ⅵ.　会員著書・新刊紹介コーナー

「間違いだらけのＬＣＣ選び」（草思社　）

杉浦　一機　著

格安航空(LCC)全盛時代、さてどの航空会社を選べばいいのか？ 料金体系は複雑、サービスも多様でいったいどこが本当にお得なのか？ 安くても「安全性」は大丈夫なのか？ 等々、「賢い利用」のための入門知識から、「上手に利用」するための中級・上級情報まで、航空業界の専門家が解説する決定版！

【杉浦　一機】

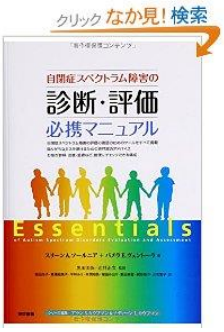
1947 年生まれ。航空アナリスト。首都大学東京客員教授。利用者サイドに立ったユニークな評論をモットーに活躍中。東京都や成田市の航空及び空港問題の委員会委員などを歴任

「航空イノベーション―日本の空はどう変わるのか」（交通新聞社）

杉浦　一機　著

1978 年、米国に端を発した航空自由化の流れは「世界の空」を大きく変えた。運賃やサービスの多様化、相次ぐ企業の合併・倒産と LCC(格安航空会社)の台頭、新興国における巨大空港の出現やエアラインの急成長など。そして今、世界に遅れをとっていた「日本の空」も急速に変化している。新生 JAL と ANA の攻防は新たなステージに入り、本邦 LCC3 社は正念場を迎える。羽田の国際化、関空・伊丹の経営統合など、空港を取り巻く情勢からも目が離せない。利用者サイドに立った評論で定評のある著者が、日本と世界の「空」の今、そして将来を詳しく、分かりやすく解説する。

自閉症スペクトラム障害の診断・評価必携マニュアル（東京出版）



今回は私が翻訳した本が出ましたので、お知らせをさせていただきたいと思います。

『自閉症スペクトラム障害の診断・評価必携マニュアル』という本で、東京書籍から出版されております。

私は第 6 章「直接観察による診断アセスメント」を担当し，翻訳執筆しました。

内容は、実際の臨床現場で出会う可能性がある，自閉症スペクトラム障害を評価，診断する際に必要な基礎知識，手法について書かれた本です。保育士，教師，医師，臨床心理士が，現場で簡便にチェックできるように具体的な事例を取り上げて，アセスメントの基礎から応用までをわかりやすくまとめました。

昨今、大学生への発達障害の支援も求められるようになってまいりましたので、もし必要な先生がいらっしゃいましたら、すすめていただけますと幸いです。

（身延山大学　森田麻登）

Ⅶ.　新入会員紹介

はじめまして、河本信雄と申します。東芝未来科学館の見学会を案内させていただきましたことをきっかけに、皆様方とお知り合いになり、そして、入会させていただきましたことを大変嬉しく思います。

私は、１９８１年に大学を卒業後、（株）東芝に勤務し主に海外営業畑を担当しました。マレーシアには４年ほど駐在しました。２００７年より東芝科学館（現、東芝未来科学館）勤務となり、その間に大学の通信課程にて学芸員資格を取得としました。その際に、一念発起し通信課程の３年に編入し日本史を学び始めました。若いころは、大学にて経済・経営を学んだのですが、歴史が好きなので、学び直したいと思っていたからです。

その後、大学院に進み、現在、佛教大学大学院（通信課程）文学研究科日本史学専攻博士後期課程に在学中です。学部の時から論文のテーマは、身近な所で東芝の創業者の一人である田中久重をとりあげています。

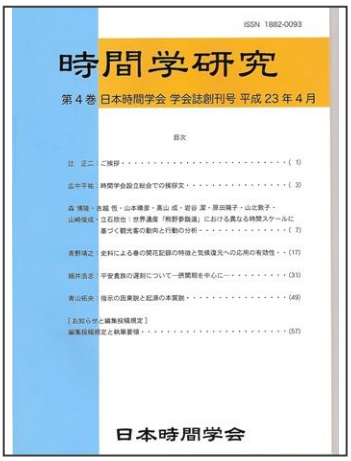
田中久重は、１７９９年に九州久留米に生まれ、１８７５年に東芝の源流となる工場を東京銀座の地に造り、１８８１年に８３歳（数え歳）で亡くなりました。その生年は初代歌川広重と二年しか違わず、江戸時代は、からくり職人、時計職人として活躍しました。幕末期はエンジニアとして蒸気船、銃砲類などを製作し、明治に入って電信機を製造しました。どの分野でも超一流でした。時計職人時代の代表作は、国の重要文化財に指定され江戸時代の時計の最高傑作といわている万年時計です。定時法と不定時法の時双方を刻み天球儀を備え、また、工芸的にも優れた名品です。５０代半ばで大成功を収めていた京都での店を弟子に譲り富も名声も捨て、佐賀藩で一介の技術者となったり、７０代半ばという高齢で、九州久留米から上京して起業したりしており、調べれば調べるほど興味の湧く人物です。

私は、５６歳になったばかりですが、これからどう生きていくかを考える上で、とても感慨深い人物です。久重にならったわけではないですが（本当は、少しあるかもしれません）、仕事は、２０１４年１月に少し早いのですが退職し現在は無職です。趣味のテニスをしたり、博士論文を書いたりして日々を送っています。家族は、家内と息子二人がおり、上の子は働いており、下の子も来春より就職する予定です。

今後、皆様とお会いしいろいろなことを話したり、経験したりすることを楽しみにしております。是非ともよろしくお願いいたします。

久重のからくり時計について熱心に説明をする著者

Ⅷ.　学会誌「時間学研究」投稿のお願い



現在、日本時間学会では学会誌『時間学研究』の投稿原稿を募集しています。

卒業研究や修士論文を書き上げられたばかりの若手会員の方々をはじめ皆様からの積極的なご投稿をお待ち申し上げます。

投稿を希望される場合、学会ホームページまたは『時間学研究』末尾掲載の「投稿規定」「執筆要項」をご熟読の上、下記の要領でご投稿いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

記

１）提出するもの投稿原稿（和文要旨・英文要旨・図表等を含む）の電子ファイル(Word ファイル、テキストファイルの 2 種)

２）提出手続き投稿原稿（図表等を含む）のファイルを添付した電子メールを編集委員会（mail@timestudies.net）宛に送付する。メールで送信できない場合には、プリントアウトした原稿 1 部（図表等を含む）とそれらのファイルを保存した CD-ROM などを『時間学研究』編集委員会（〒753-8511 山口市吉田 1677-1 山口大学時間学研究所内）へ送付する。

３）投稿規定・執筆要項「日本時間学会会誌編集および投稿規定」(2009 年 7 月 20 日施行）に準拠する。投稿原稿の分量は 40 字×30 行で 20 ページまで（図表等を含める)。また論文には和文要旨（600 字以内）と英文要旨を添付する。その他、投稿・執筆にあたっては『時間学研究』末尾頁ないし学会 HP 掲載の「日本時間学会会誌編集および投稿規定」を必ず参照のこと。

４）未入会者の場合は投稿原稿提出と同時に入会手続きを行なう（入会の要領は学会 HP「入会案内」を参照ください）

----学会賞創設について-----

現在、日本時間学会理事会では平成 26 年度総会で発議・承認された学会賞創設に関する検討作業を鋭意進めています。名称・選考方法等、詳細が決定いたしましたら改めてご報告申し上げます。

Ⅸ. 訃報

日本時間学会会員でもあり、日本の暦の大家である、 岡田芳朗先生がご逝去なさいました。 心よりご冥福をお祈りします。

岡田 芳朗

平成 26 年 10 月 21 日、肺炎のため死去。84 歳。日本の歴史学者、暦学者、女子美術大学名誉教授。専攻・日本古代史、暦の会会長。

岡田芳朗先生を悼む

日本時間学会理事細井浩志

女子美術大学名誉教授で、日本時間学会の会員であられた岡田芳朗先生が、10 月21 日に亡くなられた。享年84 才だが、夏頃まではお元気で、7 月に新刊の拙著をお送りした際も、いつものように青インクペン書きの独特の字で、早速受け取りの手紙を頂戴した。高齢のせいで体調不良、という言葉はあったが、それはもちろん年相応の話であって、文章も長く、特にお変わりはないように見受けられた。10 月28 日に、私は仕事が忙しくて、朝刊もろくに読まずに出かけ、ようやく就寝前に何気なしに訃報欄を見て、先生のご逝去のことを知り、あっと驚いた。すでに身内の方々でご葬儀はすまされたとのことであったので、もちろんお別れの挨拶は先生に申し上げていない。

岡田先生は、早稲田大学のご出身で、日本古代史を専攻されていた。たとえば、『日本古代史の諸問題』（福村出版、1968 年、共著）や、「『不改常典』について」のような古代史一般の著書・論文も出されている。だが岡田先生と言えば、何と言っても日本史分野における、暦研究の草分けの１人であり、大家である。『日本の暦』（木耳社、1972 年）や『日本暦日便覧』第一期～第五期（本の友社、1992 ～ 1995 年、共著）などの、暦に関する多くの単著・編著を世に出してこられた。私は30 年前の大学生の時分、卒業論文で古代の陰陽道のことを書こうと思ったので、関連する古代の暦の論文を探した。しかし当時のこの分野は、わかりにくいこともあって日本史研究者には敬遠されており、継続的に論文を出していたのは、岡田先生以外は、ごく少数という状況であった。私も当然のごとく、『日本書紀』や正倉院文書の暦日を考察した先生の論文や、暦の概説書を読むようになった。その頃より古代史研究では、木簡や漆紙文書、つまり地中から発掘される文字の書かれた木片（これは古代には幅広い用途を持っていた）や、工房での漆容器の蓋に転用されたため、漆の成分で偶然残った文書が注目を集めるようになっていた。すると木簡や漆紙文書に記された干支や暦注などの断片から、これらが書かれた年月日を知ることが必要となる。また古代の具注暦やそのダイジェスト版が、漆紙文書・木簡として出土する事例も増えてきた。このために、暦日が注目されるようになった。木簡を専門に研究する学術団体に、木簡学会があり、岡田先生はもちろん前から会員であられたが、私が入会したのは2003 年である。丁度この年は、持統３年（689）暦を記した木簡が、奈良県の石神遺跡で発見されるという大ニュースがあった。現在確認される日本最古の使用暦法である、元嘉暦で計算された具注暦である。だから木簡学会に出席してみると、岡田先生はまさに「時の人」であった。私が岡田先生の謦咳に初めて接したのも、実はこの時である。岡田先生は―他の人びとも認めるように―非常に穏やかで、ゆったりとした方であった。私に対しては、その後は御高論をくださったり、助言を賜るなど、わずか10 年を越える程度の交流の間に、種々のご高配を頂いた。2009 年6 月に

日本時間学会が設立される際、岡田先生にもお声をかけたところ早速入会され、設立大会が開かれた山口大学まで、わざわざ足を運んでくださった。その後は学会報告に自ら立たれたり、東京での関連イベントにもご出席なさるなど、新設の学会を大いにもり立ててくださった。特に役員をされたわけではなかったが、岡田先生が参加してくださることで、議論が締まり、また重みを増したように思う。他に研究者が少ないこともあって、岡田先生の暦の研究は、近現代、そして海外にまで及んでいる。とりわけ太陰太陽暦から太陽暦への切り換えの際の動向を取り上げた『明治改暦』（大修館書店、1994 年）は、名著だと言えよう。

私は長崎に住んでいるため、東京にお住まいの先生のお弟子さんたちや、長年先生が代表を務められた暦の会の方々ほどは、日常的にお会いしていたわけではない。だが岡田先生は私に対しても、いつもにこにこと親しく接してくださり、ご高恩を蒙ったことに深く感謝している。それが、時間学会の依頼に応えて、追悼のこの一文を書いた次第である。

X．来年度学会開催校について

平成26年度日本時間学会開催日程が決定しました。

開催日：平成２７年６月６日（土）～６月　７日（日）

開催地については、現在調整中です。決定次第お知らせする予定です。

XI．事務局からのお願い

● 学会ニュース平成 26 年第 3 号（平成 26 年 12 月 1 日号）をお届けします。

● 平成 26 年度の学会費（年会費一般会員 3,000 円、学生会員 1,500 円）が未納の方におかれましては、何卒納入くださいますようお願い申し上げます。尚、納付書の紛失等ございましたら郵送いたしますのでご遠慮なくお申し出ください。会費振込先は下記のとおりです。

【振込先】　ゆうちょ銀行　一三九（いちさんきゅう）店　当座 0087474　日本時間学会

●住所・電話番号・所属機関などの異動等がございましたら、事務局まで御一報下さい。

メールアドレス　mail@timestudies.net　（事務局：右　田・平　田）

編集後記

今年の第六回大会は九州・福岡県みやま市の保健医療経営大学で開催され、日本各地から大勢の会員が集まった。中でも、飛行機を乗り継ぎ、遠路はるばる参加された富山高専・長谷川先生。休憩中に皆でご馳走になった手土産の富山名物・鱒ずしの味は忘れがたい。大会運営補助をテキパキ熟した辻会長のゼミ生たちも初めての味わいに大いに喜んだ。時間学会の会員の先生方の専門は多岐に渡り、皆さんそれぞれの所属学会をお持ちなのだが、こうして「時間学」という繋がりで一堂に会し、多彩な顔ぶれを拝見すると誇らしくなる。この夏には、著書「日本人の居眠り」で話題になっているケンブリッジ大学のブリギッテ・シテーガ先生から研究連携のお話も飛び込んできた。また、時間学国際シンポジウムの講師としてお招きしたスタンフォード大学の西野精治先生からも米国で「時間学」をご紹介頂けることになった。いよいよ「時間学」も国際的に認知されようとしている。

そんな中、日本の暦研究の大家、岡田芳朗先生のご訃報は悲しみに耐えない。昨年のアフタヌーンセミナーｉｎ東京でお元気なお顔を拝見したのが最後となった。理事会に諮り、時間学会から、岡田先生のご霊前に弔花をお供えさせて頂いた。暦の研究に於いて、偉大な足跡を残された岡田芳朗先生のご冥福を心よりお祈りします。

さて、いよいよ師走。まさしく先生方もお忙しい年の暮れとなりますでしょうが、くれぐれもお身体ご自愛の程を。

（スーザン・Ｈ）